

藤沢

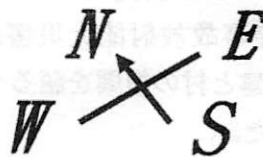
2016年4月1日

第263号

エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議

(略称) 藤沢エコネット



<http://econet2015.sakura.ne.jp>

事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

☎ / FAX 0466-87-4922

主
な
記
事

- ・飯館村避難者“凍み餅”に涙
- ・笑顔を取り戻す日をめざして
- ・マンションで空が見えない圧迫感
- ・放射線測定値 ・戦争法廃止 2000 万署名

安いだけでよいのか？電力小売全面自由化 賢い消費者に！！

4月から個人でも電力会社を選ぶことスタート。「誰でも自由に電気を創り、販売し、選べる」ことができるようになる時代が始まった。原発に頼らない社会をめざそう！！

パワーシフト：電気を選べば社会が変わる！！

ポイントは、安全安心な電源構成(CO2・放射能ゼロ)

2016年4月に向けて、続々と新電力会社が生まれているが、自然エネルギーを中心の電力供給をめざす会社はまだ、少ない。「湘南電力」は秋からスタートの予定で遅れている。電源構成の表示は義務づけられていないので、分かりにくい。電力会社を選ぶ際の参考に「5つの重視する点」の基準がある。

HP 検索→「パワーシフト」

秋以降、自然エネルギー主体の新電力はもっと増えるので、もう少し様子を見よう。東電から切り替える際、安いからとセット販売抱き合わせで、長期年数の縛りをはける契約は要注意である。特に、石炭火力発電の増設計画はCO2削減では「ブラック」だ。HP 検索→「NGO 気候ネットワーク」を参考に。

世界の流れは

COP21(パリ協定)で温暖化による気温上昇を産業革命前と比べて「2度未満」に抑えることを決定した。この「2度目標」の意義は、現状の延長で対策を考えるのではなく、あるべき未来の姿から遡って対策を決めるべきという世界の流れができたことにある。今後、排出できるCO2量が決まった(排出量には限度がある)。今のペースでCO2を排出していくと今後30年未満(2045年頃)で化石燃料の使用はできなくなる(気候行動ネットワーク試算)。即ち化石燃料関連企業からの投資撤退は避けられない。既にアメリカの公務員年金組合(世界最大の年金組合)は、化石燃料関連への投資撤退で動き出している。

日本は 日本のCO2削減目標は2030年までに：26%減(2013年比で)、2050年までに：80%削減とする「地球温暖化対策計画(案)」を策定し、意見公募(パブリックコメント実施)、5月上旬に閣議決定を予定。「地球温暖化対策計画(案)」に対する意見の募集に参加を(4月13日(水)まで)。

詳しくは→ <https://www.env.go.jp/press/102259.html>

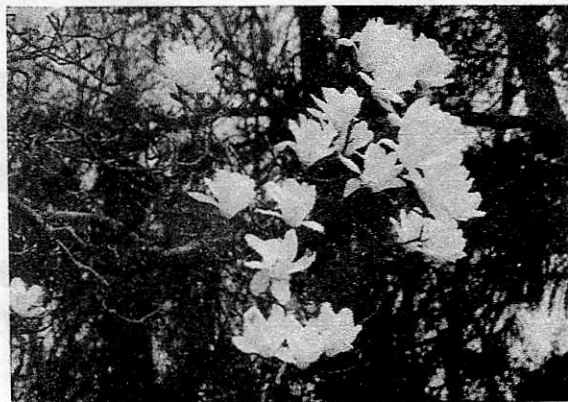
〈低炭素都市藤沢をめざそう〉

藤沢市は2022年までにCO2の40%削減をめざす「エネルギーの地産地消推進計画」を昨年2月に決定。

○市民主体のエネルギー政策で地域循環による低炭素都市
藤沢を！！

○身近なエネルギーを地産地消のネットワークで災害にも
強い安心・安全なエネルギー街を！！

(地産地消エネルギー藤沢市民の会 宮地 俊作)



白モクレン(大庭城趾公園) 矢板氏提供

笑顔を取り戻す日を目指して

飯館村放射能エコロジー研究会（IISORA）が主催のシンポジウム『原発事故放射能大災害から5年～生活・コミュニティ再建と村の復興を語る～』が2月27日、福島市で行われました。

午前中は、豊田直巳さんの映画『奪われた村～避難5年目の飯館村民』上映。

午後には5つのテーマで大変中身の濃い集まりでした。各5分の発言、それぞれが村民の方か現場に足を運んだ方なので内容も具体的でした。終了時の報告では村民の方も50名ほど参加されていたそうで、また3月11日が近いせいか取材陣も多く熱気がありました。

テーマ ①飯館村の放射能汚染実態と今後、除染の効果と限界 ②これまでの避難生活、生活再建、コミュニティ再建行動



③放射能と健康被害：原爆被爆者やチェルノブイリ調査をふまえて ④ADRと賠償 ⑤村の復興とは何か

中でも、元、村の職員だった方が様々な情報を集めて、どこからでも総合的に必要な情報にたどり着けるように『いいたてネットワーク』<http://iitate-network.org> というホームページを作られているのはよかったです。今後の復興計画がどのように進むか、その際にどのタイミングで意見を出したらいいのかなど、実際に役立つサイトです。

私はこれまでこの会のシンポジウムにはできるだけ足を運んできましたが、今回はまた別の意味がありました。それは最後のテーマで登壇する方が、知っている方だったから。

ふくしま再生の会といって、飯館村内で農業再起を目指す方々を支援したり避難先での健康支援などしている専門家が中心の団体です。村内に戻って暮らしている方ともおつきあいしています。

昨年、私はその方育てた水仙の花園での懇親会にも伺いました。一緒に田植えもしています。村で育てて検査を通ったお米もいただいて食べています。

IISORAに集まる方たちがどちらかといえば「帰還は時期尚早」という意見の方が多く知っているのも、

違う立場との意見交換が楽しかったのです。

この日再生の会から登壇したのは、避難先の福島市で牛を育てている山田さんと、線量・天候などの測定や除染方法の開発などで支援している東大農学部教授の溝口さん。ところがその前に登壇した方のテーマがADR（裁判外紛争解決手続）だったので、会場はちょっと決起集会的な雰囲気になりました。

そのあとに登壇した山田さんは、ご自分が計画している村内の酪農について前向きに語られ、溝口さんは「暗い話題が続いたので明るくいきたい」と始め、いかに村内での農業に可能性があるかを語りました。それに対して会場から、若い村民のAさんの発言があり「自分の父が家族に相談もなしに帰村を決めて、家族は心配でならない。再生の会が真摯な活動をしているのは知っているが、家族からすれば”そそのかす”立場に見えてしまう」など。

ほかにも「暗いといわれたが、はじめから暗かったわけではない」など何人かの方から異議が上がり、やりとりにはらはらしました。加えて外国から参加した方が、溝口さんを東大教授というだけで陰謀を企んでいる人のように言うのでびっくり。飯館村の復興という同じ方向を向いているはずなのになんだか異世界に来てしまったような違和感がありました。

それでちょっと心配になって懇親会で山田さんのそばにいたところ会場から発言したAさんが来られてお話し、なんと山田さんはその父上をよくご存知でした。ちゃんと対話されていてほっとしました。

でもその若い方が何度も「自分は山田さんの息子さんのような”できた跡継ぎ”ではないから」と言われるのを痛ましい思いで聞きました。どなたの決断も間違っていないのです。支援者はそれぞれを支えるだけ。ADRにかかっている人も「やがては自分も帰って農業をやりたい」と言われるし、一方、山田さんもまだ息子さんには「一緒に帰ろうとはいえない」と言われます。村民の方同士はそんなに気持ちが離れているわけではないのに、周りがその溝を深めるようなことをしてはいけない。レッテルを貼ってそれぞれの立場に引っ張ろうとすることがあったらそれは、当事者の方を苦しめるだけではないかと感じた日でした。

本当の復興というのは、村民の方同士が笑顔で再会できる日、何よりそれを目指したいと思います。来月は再生の会で飯館村への桜の植樹に参加してきます。楽しみです。

（杉山百合子）

マンションで空が見えない圧迫感

最近マンション建設の説明会に出る機会があった。市街地に二つのマンション、一つは横 50m・縦 23m・高さ 48m、もう一つは横 43m・縦 15.5m・高さ 45m というもので、近隣住宅地の方には大迷惑であろうと推察しました。

日照・電波障害・風速の説明はありましたが、私の

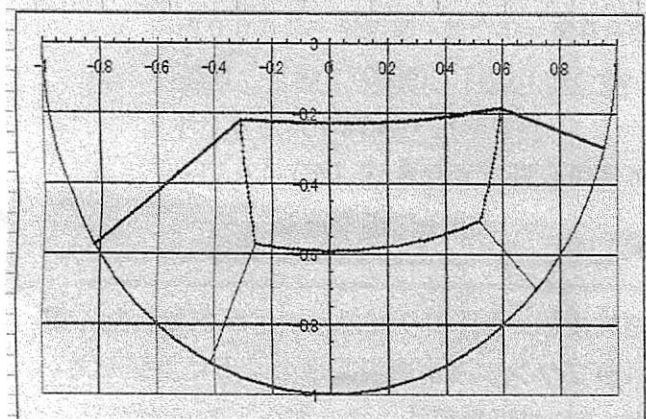
第一印象は空が見えなくなること・圧迫感がひどいのではないかとの思いでした。

それで調べたのが「マンション問題のための形態率」

(<http://research.kek.jp/people/wake/keitai/>)

というページでした。左図のように、建物の上部の対角の座標を入力し、また、見る位置の座標を入力すると形態率—当該マンションの正面 10m の家 A さん宅の例では 32.0% が出てきます。北東に約 60m 離れた B さん宅では 1.4% でした。

見る位置	x	15.4m	(建物の東の端から西への距離)	形態率
	y	1.5m	(目の高さ)	32.0%
	z	10.8m	(建物の南端から南への距離)	
見る方向	th	0°	(北から西方向への回転角度)	



形態率は東京理科大学の武井正昭氏が提唱する建物の圧迫感を示す指標で魚眼レンズで捉えた全天空間を建物が示す%を示します。8%が受容限度とされ、多くのマンション訴訟でこの値が用いられています。

(森)

館村避難者“凍み餅”に涙！

福島第1原発事故から5年が過ぎた。昨年1月伊達の仮設住宅から茅ヶ崎に話しに来てくれた飯館村の菅野榮子、菅野芳子さんを再びお呼びして話を聴いた。

飯館村は5年前 6200 人の村民総てが追い出され、生活の場を奪われた。加害者の東電と国は謝罪しながらも“安全神話”を言い続け、帰還を強く促している。

健康不安を漏せば復興を邪魔するとたたかれる。保障を求めれば守銭奴扱いすらされた。今後何年続くかわからない。生まれ育った故郷に帰れない不安は募るばかりだ。しかし生きている限り食べねばならず、避難先の近くに畑を借りて麦や野菜、味噌を作り始めた。風評被害で出荷でき



るものは何一つない。自分が食べるだけの物をと…。子どもの頃食べた“凍み餅と豆菓子”を村民の集会に出したら涙を流して食べながら昔の村の生活を懐かしみ語り明かした。「村に戻りたいか？」の質問に「考えている」と答えていたが“額には帰りたくない”と書いてあり、目には東電と行政への怒りが燃えさかっていると私は感じた。

国は御用学者の数値を挙げ、避難指示を何とか解除しようと考えている。「法定の一般被ばく限度の1ミリシーベルト（年）に対して福島県は20ミリシーベルト（年）で住めと言うのか！」あきれかえる話だ。この怒りと故郷への愛着に揺れ動くお二人の話に聞いているとこちらが涙をこらえるのに必死だった。

今年に入り東電の旧経営陣3人に検察審議会決議により、業務上過失致死罪で強制起訴された。原発事故の原告は全国 12,539 人、内 福島県 7,826 人と増え続けている。飯館村でも 30%は「もう戻らない」と決断。「判断がつかない」44%「帰りたい」は 26%に過ぎない。避難移住は増え続け、周辺自治体の存続が危機に瀕している。

今のあべ政権の『戦争法』『緊急事態条項』『解釈改憲』等、憲法違反の法案を廃止して、環境事故に対して弱者にやさしい政策を実施して欲しいと老骨にムチを打ちながら生きている。(鶴沼在住 58 年 國枝健)

ECNET INFORMATION

戦争法廃止2000万署

「ふじさわ・九条の会」の取り組み

「戦争をさせない・9条壊すな総がかり実行委員会」の呼びかけで、①「戦争法である平和安全保障関連法の廃止」、②「立憲主義の原則を堅持市憲法9条を守り活かす」の2点を請願内容とした2000万署名が全国で取り組まれておりますが、「ふじさわ・九条の会」でも、今、創意工夫をこらし、その達成に向けて取り組みを進めています。

六会地域では、地元の法泉寺住職さんに署名の協力の呼びかけ文を書いて貰い、署名簿と一緒にこれを持って地域・近隣を廻って呼びかけています。住職さんの知名度は抜群で多くの家で協力を約束してくれたとの事です。

江ノ電沿線地域では、地域の「ふじさわ・九条の会」の会員名簿をカーナビに「地図落とし」して車で戸別訪問して署名を頼みに廻っています。住所録だけではなく実際のお宅が見つかるのがいいけれども、カーナビだと車が誘導してくれるので助かるとの事です。

藤が岡地域では、事前に電話で署名のお願いをし、後で署名を持って行って書いてもらったり、同窓会名簿を使って手紙で署名を依頼したりしています。手紙作戦では、実際に27人に手紙を送り、19人から50筆も署名を集めた人もあったとの事です。ただ、手紙作戦は切手代が馬鹿にならないなとの事です。

「ハガキの2000万署名簿」もできる～2000万署名を達成するため、総がかり実行委員会では、5名連記のハガキ署名簿も作りました。これを使えば、電車の中でも、旅先でも気軽に署名を頼む事が出来ます。52円切手を貼ってポストに投函して頂けば総がかり実行委員会に届きます。ハガキは「ふじさわ・九条の会」事務局で沢山とり寄せましたので、ご活用下さい。2000万署名のメ切は5月3日です。目標達成に向けて、是非、多くの皆様のご協力をお願いします。

(ふじさわ・九条の会 小林麻須男)

放射能測定値

(HORIBA Radi)	単位(μSv/h)
3月中に測定(地上50cm)	
石川イトーヨーカドー駐車場	0.062
大庭西部団地若葉幼稚園前	0.046
大庭小学校校門前	0.047
日大動物病院前	0.053

「海と共に生きる困難と希望」

～2016年祝島最新報告～

講演 山秋真さん(ノンフィクションライター)

5月7日(土) 14:00- 鶴沼公民館

湘南のなぎさを守る藤沢市民の会

連絡先 0466-82-2036



ふじさわ9条の会11周年記念の集い

講演 井上麻矢さん(井上ひさしさん三女こまつ座代表)

4月23日(土) 13:30- 湘南台シアターホール

主催/問合わせ ふじさわ9条の会 090-9239-0864

第3回 ふじさわ平和文化展

絵画 彫刻 書道 写真 絵手紙など

4月12日(火)～17日(日)

藤沢駅ルミネ6階 藤沢市民ギャラリー

主催 ふじさわ平和文化展実行委員会・辻堂文化9条の会 0466-33-1148 永山

福島映画 「大地を受け継ぐ」

4月25日 10:40 から 日大生物資源科学部

井上監督の話あります。福島の農業の状況を知っていただきたく、興味のある方参加ください。

上映時間 86分 無料

藤沢エコネットから

◆学習会「大気汚染と健康」

5月19日(木) 18:00-20:00

六会公民館(新) 第1談話室

◆会員募集=年会費・購読料→3000円

ゆうちょ銀行 (9900) 店番 (029)

当座預金 0046501 ㊦ザエコネット

◆事務局会議 4月8日(金) 13:30～

市民活動推進センター

《編集後記》4月より電力自由化が開始した。電気料金プランのみが選択基準のように宣伝しているが、FIT(再生可能エネルギー)なのか否か、原発の電気なのか否かを問題にして選びたい。ベルギーの国際空港で起こった連続テロは、当初原発を狙っていたという。日本の脅威は丸腰の原発であり、安保法制では守れない。廃炉こそ安全安心が実現する。(A)